

# 耳鼻咽喉科

## (スタッフ)

部長 : 藤田 佳吾  
 主任医師 : 合原 良亮 (4月から)  
 医師 : 合原 良亮 (3月まで)  
 常勤嘱託医 : 藤永 真希  
 : 平岡 晃太  
 専攻医 : 重見 英仁 (4月から)

## (診療実績)

### 1. 外来

#### 【外来診療日】

外来診療は月・火・木を基本として、水・金は予約患者のみとしています。

#### 【外来診療内容】

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域に関わる疾患の精査および治療方針を主体としています。

水曜日午前中は月に2回の補聴器の相談外来を、月・火・金曜日の午後には聴性脳幹反応などの聴覚特殊検査を行っています。

2022年の外来新患者数は1,253人(そのうち紹介数は933人)、延べ外来患者数は8,094人(1ヵ月平均は674.5人)でした。

### 2. 入院

耳鼻咽喉科の入院病床数は24床(コロナ禍では病床制限に応じて変動)であり、2022年入院患者延べ数は6,140人(1ヵ月平均:511.7人)でした。

この平均在院日数は11.8日でした。

### 3. 手術

#### 【手術日】

全身麻酔による手術は月曜日午後枠と水・金曜日終日枠で対応していましたが、待機症例も多いため手術部の協力のもとで2022年4月以降は毎月偶数週の金曜日午後枠に手術枠を増設しました。

#### 【手術内容】

2022年に手術室で行った手術が306件でした。1ヵ月あたりの手術件数平均は25.5件であり、主だった手術内容は口蓋扁桃摘出・顕微鏡下喉頭微細手術・頭頸部がん手術・内視鏡下鼻副鼻腔手術・頭頸部良性腫瘍手術でした。また、手術室外では耳鼻咽喉科外来にてリンパ節生検や各種小手術(日帰り手術)、他科から依頼のある病棟ベッドサイドでの気管切開術などを総じて約130例施行しています。

表1に手術室で試行した主な手術内容詳細を提示します(注:扁桃摘出術は1例とカウントした。また、同日に複数の手術施行する場合もあり、上記手術総件数よりも多い例数となっている)。

表1 手術内容詳細

(単位:例)

	2020年	2021年	2022年
鼻科学			
内視鏡下鼻副鼻腔手術	54	57	74
鼻中隔矯正術	10	17	18
下甲介手術	6	10	19
鼻副鼻腔良性腫瘍手術	4	3	11
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3	1	2
耳科学			
鼓室形成術	0	0	0
先天性耳瘻孔摘出術	7	12	17
鼓膜換気チューブ留置術	17	34	8
口腔咽頭科学			
口蓋扁桃摘出術	103	101	84
アデノイド切除術	15	15	11
口腔良性腫瘍切除	2	2	3
口腔悪性腫瘍切除	8	8	7
咽頭良性腫瘍切除	9	14	16
咽頭悪性腫瘍切除	5	8	4
喉頭科学			
喉頭直達鏡手術	29	23	25
喉頭悪性腫瘍手術	5	5	4
気管切開術	26	35	44
頭頸部外科学			
耳下腺良性腫瘍摘出	22	18	17
耳下腺悪性腫瘍手術	5	3	0
顎下腺(良性腫瘍)手術	8	10	11
唾石摘出術	0	1	5
甲状腺良性腫瘍手術	4	5	6
甲状腺悪性腫瘍手術	6	6	4
頸嚢摘出術	4	6	5
頸部郭清術	19	19	10
頸部リンパ節摘出術	0	37	42

### 4. 頭頸部がん患者

2022年に治療を行ったがん患者数は81例(新たに発見・治療された新規がん患者51例)でした。内訳は、鼻副鼻腔がん5例、口腔がん11例、咽頭がん30例、喉頭がん25例、甲状腺がん5例、唾液腺がん1例、その他の頭頸部がん4例でした。これら頭頸部がんに対する治療としては、手術が24件(複数同時手術あり)、放射線治療単独または放射線化学療法が47件、化学療法が22件でした。

## (今後の方向性)

### 1. 基本方針

これまで通り『入院・手術可能な耳鼻咽喉科施設』が基本的姿勢であり、急性期疾患および頭頸部の良性疾患から頭頸部がん治療まで幅広く対応したいと考えています。ただしコロナ禍においては平時のような対応が困難となる場合もあります。

外来診療においては精査や治療方針検討を主体とし、慢性期 follow は紹介医や連携医にお願いすることになります。

頭頸部がんにおいては、放射線療法・化学療法・手術療法を組み合わせ集学的治療による根治を目標とすることを前提にしつつ、がん化学療法の選択肢が増えたことによる治療選択の多様化も加味しながら、QOL維持にも配慮した治療方針を個々の症例で検討していくことを基本としています。

今後も手術治療を主とする耳鼻咽喉科として、質の高い医療を提供することを目標とします。

(文責:藤田佳吾)